

報 告

中国・佳木斯大学における国際交流事業の活動報告 — 护理学院（看護学院）との交流を中心にして —

佐藤公美子

札幌医科大学保健医療学部看護学科

2018年度の札幌医科大学国際医学交流事業において、2018年11月17日から11月25日、中華人民共和国黒竜江省の佳木斯大学を訪れた。本稿は、この交流事業による佳木斯大学の看護学院、附属第一医院、附属第三医院における報告である。交流の目的は、日本と中国の歴史や文化、看護教育体系について相互理解を深め、本学と佳木斯大学の看護教育を発展させ、研究活動の可能性を探究することである。主に交流した看護学院は、中国看護教育体系の本科課程（4年間の大学教育）と大学院修士課程を有しており、本科卒業後の学生の多くは大学院進学を目指している。図書館や学内の技術演習室で、向上心を持って自己学習に黙々と励む看護学生の姿が強く印象に残っている。また、看護学院の教員や附属医院の看護師は、学生に対する看護技術の指導に大変熱心であるとともに、看護師育成の使命感を持って学習を支援していた。

キーワード：佳木斯大学 国際交流 中国の看護 看護教育

Report on international exchange activities at Jiamusi University in China — Focus on interactions with the School of Nursing —

Kumiko SATO

Nursing Department, School of Nursing, Sapporo Medical University

As a part of the exchange programs of Sapporo Medical University with other international medical schools, the author visited Jiamusi University in Heilongjiang Province, People's Republic of China from November 17 to 25 of 2018. This paper reports on the training activities at the nursing school, the 1st, and the 3rd hospitals affiliated to the university (teaching hospitals). The exchange program aims to strengthen mutual understanding about history, culture, the nursing education systems of Japan and China, and to develop the nursing education and research activities of both universities. The nursing school which was the main training site has an undergraduate program (4-year education) and a master's program in the Chinese nursing education system. We learned that all the students who graduate from the 4-year program wish to go on to the graduate schools. Seeing the nursing students devoting themselves to self-study in the in-campus libraries and skill training rooms made us realize that the students there have high aspirations. It was impressive to see that instructors at the nursing school as well as nurses at the teaching hospitals are very enthusiastically providing the students with instruction and guidance in nursing skills while responsibly assisting the study of the students.

Key words: Jiamusi University, International Conference, Nursing of China, Nursing Education

Sapporo J. Health Sci. 8:32-36(2019)

1. はじめに

2018年度の札幌医科大学国際医学交流事業において、2018年11月17日から11月25日、中華人民共和国黒竜江省の佳木斯大学を訪れた。交流目的は、日本と中国の歴史や文化、看護教育体系について相互理解を深め、本学と佳木斯大学の看護教育を発展させ、研究活動の可能性を探究することである。交流は看護学院（护理学院）と附属第一医院、附属第三医院で行い、看護技術演習と臨床実習の見学、そして筆者の専門領域の講義を行った（表1）。本稿では、この交流事業を通して筆者が見聞した事柄を、現代中国の医療制度や看護教育体系と照らし合わせながら述べていきたいと思う。

2. 佳木斯大学の概要

佳木斯市¹⁾は、中国北東部に位置しロシアとの国境までは約100kmの距離と近く、緯度は北海道稚内市よりさらに北に位置する。筆者が訪れた11月中旬で既に-16~-17℃であり、厳寒期は-30℃を下回る。札幌市から佳木斯市の直線距離は950km（参考：札幌市から東京までは約850km）と地理的には近いが、直行便が無いため千歳空港から北京経由で7時間を要する。佳木斯市の人口は240万人程で、黒竜江省の経済、交通、文化などの中心都市である。農業（穀物など）やエネルギー産業（石炭や天然ガス）の資源も豊富であり、滞在中に“石炭”を満載したダンプカーが往来しているのを多く目にした。

佳木斯市の中心部にある佳木斯大学は1947年に設立され、130万㎡の広大なキャンパスに25学部と4つの研究院、82の研究施設を有し、文学、工学、医学、経済、教育など11分野を持つ総合大学である。大学及び附属医院の教職員

は4,020名おり、学士学生22,367名、大学院生1,590名、32か国からの留学生512名（2018年）²⁾が在籍している。さらにロシア、米国、英国、日本など13の国や地域にある48校との大学と協定を結んでおり、海外からの研究者や教育者が頻繁に来訪している。看護学院は、2010年にリハビリテーションケアを特徴とする専門看護師を育成するために設立され、歴史ある佳木斯大学の中でも新たな学科の一つである。

佳木斯大学には三つの附属医院がある。研修先の附属第一医院は急性期医療（循環器疾患、急性脳血管疾患など）を専門とし、附属第三医院はリハビリテーション医学の専門病院である。中国の病院は病院のベッド数や医療環境基準により三等級に分類されており、一級はベッド数100床以下の居住区病院、二級はベッド数100床以上500床未満で市や区の病院が該当し、三級は中国衛生部・省衛生庁・市衛生局の管轄で大学附属病院などベッド数が500床以上の病院である。各級はさらに甲乙丙の3つに分けられ、三級特級を加えて10等級に分類される³⁾。佳木斯大学の附属第一医院、附属第三医院ともに三級医院として位置づけられている。

3. 中国の看護教育体系の発展過程

中国の近代看護の創始は、日本と共通している。中国における近代看護教育制度の導入は、1880年代の欧米諸国から来たキリスト教使節団によりもたらされた。最初の看護教育は1887年、E.Mckechnie氏によって上海婦儒医院看護訓練校で創設された⁴⁾。その後、1888年にアメリカ人宣教師E.Johnson女史が福州市に看護師養成学校を開校した。日本も同様に1886年、アメリカ人宣教師M.E.Read女史を教師とした有志共立東京病院看護婦教育所が創立され、看護婦の育成が開始となった⁵⁾。このように近代における中

表1 交流スケジュール

11月	曜日	研修内容
17-18日	土日	新千歳-羽田-北京首都国際空港-佳木斯東邦空港
19日	月	AM 附属第三医院見学（リハビリテーション専門病院） PM 护理学 教員座談会
20日	火	AM 学生の実習を見学（附属第一医院：急性期病院） PM 「近代から現代の日本の看護教育史」 - 質疑応答
21日	水	AM 今後の交流検討会議 PM 基礎看護学の講義・演習 参加
22日	木	AM 「日本の看護OSCEと札幌大看護学科のOSCE紹介」 講義後、実践演習 PM 学生の実習を見学、看護師の看護見学（第三医院・リハ病棟）
23日	金	AM 図書館、標本館などを見学 PM 大学教員による音楽発表会の見学・交流会
24-25日	土日	佳木斯東邦空港-北京首都国際空港-羽田-新千歳

国と日本の看護教育の草創期は共通しているが、その後の歩みは異なると言える。中国では、1937年の日中戦争により看護教育がいったん中断し、さらに1966年以降の文化大革命の政策により全ての看護学校が閉鎖され看護教育は停止となった。1977年に文化大革命が終結し、1983年に大学教育の本科課程が設置され看護教育体系が整備された。これら時代背景を経て、今日の中国の看護教育体系は、「①中等看護専門学校教育」、「②高等教育」、「③成人看護教育」の3領域に分類される⁶⁾。①中等看護専門学校は、中学校卒業以上を入学条件とする3学年制の教育制度であり、修業年限は3年間である。②高等教育は大学専科課程と大学本科課程に分かれ、高等学校卒業以上が入学条件である。専科は3年間、本科は4年間の修業期間である。③成人看護教育は、在職看護師を対象に通信教育などによる教育制度である。さらに、中国では大学院教育が強化され、1992年から修士課程、2004年から博士課程が開始となった⁷⁾。佳木斯大学看護学院は、上記の②高等看護教育の大学本科課程の教育機関であり、学生数は一学年70～90名ほど在籍している。看護学院は2017年に看護学の大学院（修士課程）を開設した。看護学院の本科生のほとんどが大学院進学を目指しており、中国国内の看護高等教育が加速していることが伺える。または1979年から2015年まで導入された「一人っ子政策」による世代の学生たちであり、親から子供への期待が大きく高等教育化が進んでいるとも考えられる。

4. 佳木斯大学における交流内容

1) 看護学院（护理学院）における看護教育の特徴

本学と佳木斯大学の看護教育課程のカリキュラム配置には若干の相違がある。本学看護学科は、一般教育科目（生物学的理解、社会と文化、コミュニケーションなど）と専門教育科目（専門基礎、専門、統合学習、臨地実習）から成り、それぞれの授業は講義、演習、実習・実験の形態で行われる。特に、看護学は講義と演習を併せて段階的に学習し、臨地実習は学習進度に合わせて1年次から4年次まで組まれている。4年間で徐々に知識、技術、態度を統合しながら、看護師として必要な看護実践能力の修得を目指して科目が配置されている。一方、佳木斯大学看護学院では、1年生から2年生は主に必修科目（教養、専門基礎）を学び、3年生では看護専門科目を習得し、4年生の1年間は集中して臨地実習を行う。

また、中国の特徴的な看護教育内容は、看護の専門科目の中に社会看護学、倫理看護学、コミュニケーション学、看護美学、看護マナーなどの人文系分野の科目と、公衆衛生学やリハビリテーション学、高齢者保健、在宅看護学、精神看護学などの専門科目の設置が指定されていることである。看護師としての専門能力を養成することに加えて、看護マナーなど看護師の態度教育を重視していた。実際、看護学院内には壁一面ガラス張りの部屋があり、入学後間

もない看護学生は立ち方やお辞儀の仕方を練習すると説明を受けた。3年生の演習や4年生の病棟実習の様子を見学した際、学生の立位姿勢が一様に正しく揃っており、これらの態度教育が身につけていると感じた。

2) 研修内容；講義

私は研修中に二つの講義を行う機会を得た。最初の講義は2年生、3年生に向けた「近代から現代の日本の看護教育史」の講義である（写真1）。ここでは、近代のイギリス・ナイチンゲール看護教育がアメリカ、日本、中国へ波及した経緯を説明し、さらに近代から現代の日本の看護教育の発展過程を話した。最後に、今日の高齢化社会における看護職の活動内容を紹介した。学生たちは「ナイチンゲールは良く知っているが、中国以外の国の看護教育にも関わっていたことは初めて聞いた」と感想を述べていた。また、高齢化社会を歩む日本の看護に大変興味を持ったようであった。それは、現代の中国は高齢化の進行に伴う要介護高齢者や認知症の増加などが予測されており、この学生たちが今後、直面する課題と捉えたためであろう。高齢者に対する敬愛心は中国国家の大切な教えであり、家族が介護を担うのは当たり前とされているが、看護教育にも高齢者看護や在宅看護、認知症の対応など、将来の課題を鑑みた科目の導入や内容の検討が必須であると教員から説明があった。



写真1. 講義の風景（筆者と通訳の劉氏）

二つ目の講義及び演習は教員から要望があった「日本の看護OSCEと本学看護学科のOSCE紹介」である。OSCE (Objective Structured Clinical Examination) とは、客観的臨床能力試験の略であり、1990年代にアメリカの医学教育で開発され、その後、看護教育にも導入された。アメリカのOSCEを模して日本の看護OSCEは2000年代から浸透している。本学看護学科では2015年度から4年次の看護統合科目に導入し、模擬患者を対象にして、臨床の看護場面を現実的に再現しており、OSCEを経験した学生の自己教育力が向上することを目的としている。講義では、日本の

看護教育にOSCEを導入した経緯と背景、本学看護学科のOSCEに活用した学習理論（例えば、Knowlesの成人学習理論やKellerの学習意欲モデルなど）、模擬患者のシナリオ作成、OSCE課題の作成及び評価基準について紹介し演習を行った。看護学院では2020年秋の4年次生からOSCEを開始する予定であるためか、教員らは本学のOSCEの内容に興味を示し、特に、本学で行っているフィードバック時に活用しているマネージメント理論（ポジティブ・フィードバック法）に対して、多くの質問があった。

3) 研修内容；看護技術演習の見学

2年次の基礎看護学の技術演習「一次的救命処置」を見学した（写真2）。この演習は、最初に担当教員がパワーポイントを用いて講義を行い、その後、代表学生が心肺蘇生法を実施した。さらに教員がデモンストレーションを行い、学生全員で実施するという進行であった。学生は事前にテキストで学習したうえで講義に臨んでおり、教員の発問に対して学生個々が声に出して答えていた。技術を学ぶ学生の姿勢が一生懸命であるとともに、デモンストレーションの教員の姿勢や動作が洗練されていた（写真3）。また、担当教員間で教育内容を検討するために、デモンストレーションの様子を動画撮影していた。学生の見本となる



写真2. 基礎看護学の技術演習（BLS；一次救命処置）



写真3. 心肺蘇生法のデモンストレーション

ように、看護技術の正確さや看護者としての動き、姿勢を切磋琢磨している様子が伺えた。

4) 研修内容；附属第一医院及び附属第三医院での臨床実習の見学

附属第一医院の腎臓内科病棟と附属第三医院の成人療養病棟を訪れ、実習の様子を見学した（写真4）。一病棟の実習生は4年次学生1～3名であり、実習の科に応じた疾患や治療に関する筆記試験、及び静脈内注射や輸液療法などの技術試験を実施しながら病棟で看護実践を習得していく。学生指導は、主に勤務経験7年以上の主管看護師⁸⁾が行う。学生の指導内容及び評価は日課（手書き）で記載されており一人一人の学生を大切に育てていると聞き、看護師育成の使命感を持っているように思われた。学生もまた、教員の指導に応えるように、臨床実習は学内で学んだ知識、技術を実践する場であると認識しており、入院患者に対する身体診察や静脈注射、輸液療法などを看護師と共に行っている。また、一つの病棟実習中に看護師と同様の勤務帯での夜間実習が組まれていた。中国のほとんどの医院は三交代制勤務であり、附属第一医院も日勤帯8時から15時、夜勤帯15時から4時、早朝勤務帯4時から8時の変則三交代制である。

佳木斯大学附属医院に限らず、中国黒竜江省の看護師不足は深刻で、地方都市は北京や上海などの大都市と比べると看護師の給料は低く待遇も悪いと聞く。見学した附属第一病院・腎臓内科病棟を例にすると、病床数は35床と血液透析ベッド25床あり、医師は9名、看護師は31名配属されていた。しかし、この看護者の中には、卒後1年未満の経験の浅い看護士（护士）が8名含まれている。看護者の仕事は患者の日常生活の援助、治療処置の介助、輸液療法の実施など多岐にわたる。看護者しかできない事柄が優先されるため患者の療養上の世話には手が足りず、付き添う家族が世話をするようになる。そのため家族は患者のベッドの横や下に寝泊まりしている。主管看護師は「附属医院では家族の付き添いは看護体制上、必須ではない」と言うが、



写真4. 附属第三医院の実習風景（主管看護師と4年次学生）

遠方から訪れる家族も多く、簡単には病院の往来も叶わないため付き添っているといった事情もあるようであった。

5. おわりに

佳木斯大学を訪問して講義、演習、病院実習など様々な交流の機会を頂いた。臨床看護師と教員は学生に対して、安全に正確に看護実践を学べるように支援しており、教育者としての熱心な姿に共感を覚えた。さらに、図書館や学内の技術演習室で、向上心を持って自己学習に黙々と励む看護学生の姿が強く印象に残っている。

研修期間を通して、佳木斯大学との交流事業の関係者の全ての方々から思いやりや気遣いの心を感じた。また、今回の国際交流事業のプログラムに佳木斯大学大学院日本語学科の大学院生が通訳をしてくれた。通訳者（劉 爽爽氏）を介して講義、演習、病院見学、教員座談会、会食など大いに助けられ深く感謝している。

佳木斯大学と本学は長年にわたり、国際交流事業を通して研究者を受け入れ交流を深めてきた。今後、両学教員が看護教育の歴史的背景や文化、思想などを相互に理解していくことを願っている。中国と日本は、看護師養成課程の大学化に向けた取り組みや高齢化社会への対応など共通課題も多くある。日中の友好と共に、両学の教育、研究が発展する一助になれば幸いである。



写真5. 学長を表敬訪問
(作業療法学科・齊藤秀和助手と筆者)

謝 辞

2018年度の札幌医科大学国際医学交流事業に参加させて頂き、貴重な経験の機会を頂戴しました。今回、交流研究者として派遣して下さった札幌医科大学理事長 塚本泰司教授、保健医療学部学部長 大日向輝美教授、国際医学交流事業ご担当の先生及び事務局、看護学科長、教員の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 札幌市公式ホームページ：ジャムス市の紹介。
http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/memberscity_jiamusi.html. (2018-12-26)
- 2) 佳木斯大学ホームページ (2018年10月時点) 概況
<http://www.jmsu.org/xxgk/jdgk.htm> (2019-1-11)
- 3) 赤坂真人, 池永理恵子, 劉亜: 現代中国の都市部医療機関に関する調査報告. 吉備国際大学紀要 (人文・社会科学系). 28: 157-169, 2018
- 4) 趙傑剛, 羽山由美子, 青山ヒフミ: 中国における看護教育の現状と看護教員の資質向上についての提言. 大阪府立大学看護学部紀要12(1): 123-128, 2006
- 5) 東京慈恵会: 慈恵看護教育百年史. 東京, 文永社, 1984, p21-28
- 6) 煤田徳東: 中国の医療制度と看護師問題について. 大阪大学大学院博士論文, 61-62, 2013
- 7) 康鳳英: 中国における看護教育の現状と課題. 石川看護雑誌4: 65-68, 2007
- 8) 6) 同掲66-68
看護師（護師）は大学卒業後の経験年数、修士・博士の学位取得、上級試験の合格を経て、主管護師、副主任護師、主任護師となる。主任護師は大学教授相当の高級職称である。